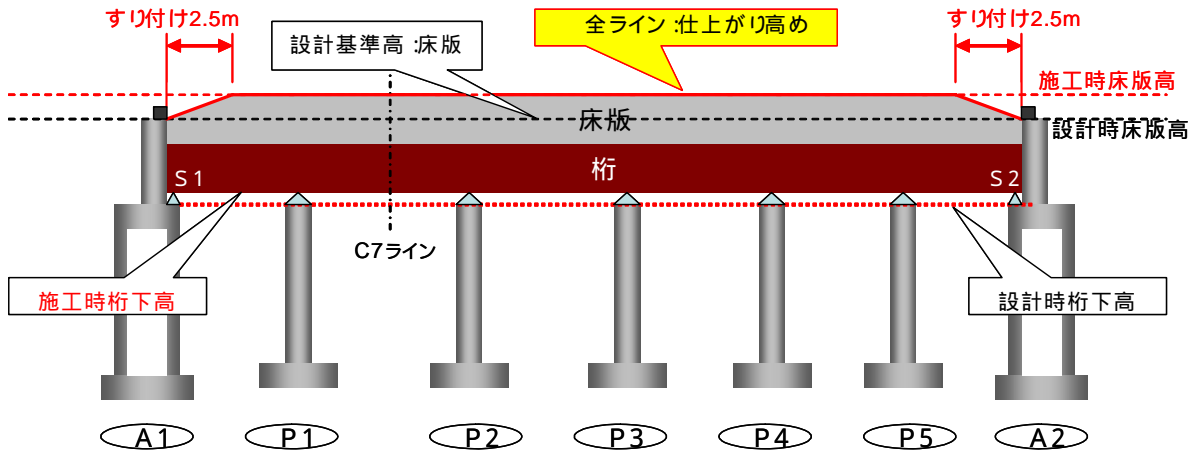


## 1. 現地の実測結果

床版の基準高さが、設計基準高に対し A 1 ~ A 2 支沓間測定箇所 ( 160 測点 ) の 94.3% で、出来形管理規格値 ( ± 20mm ) を超過し、最大超過高さは + 84 mm。

A 1、A 2 橋台から 2.5 m 間の床版厚は、厚さ不足で施工されており、出来形管理規格値 ( -10mm ~ +20mm ) を下回る最大 - 24 mm の不足が発生。



( 図 1 ) 側面模式図

## 2. 床版が高く施工された原因

床版部が高く施工された原因は、「請負者が主桁架設時の基準高を間違ったこと」に加え、適切な施工管理がなされなかったため「桁架設時の施工誤差及び床版、ハンチ施工時の施工誤差が修正されなかったこと」によるものと判明。

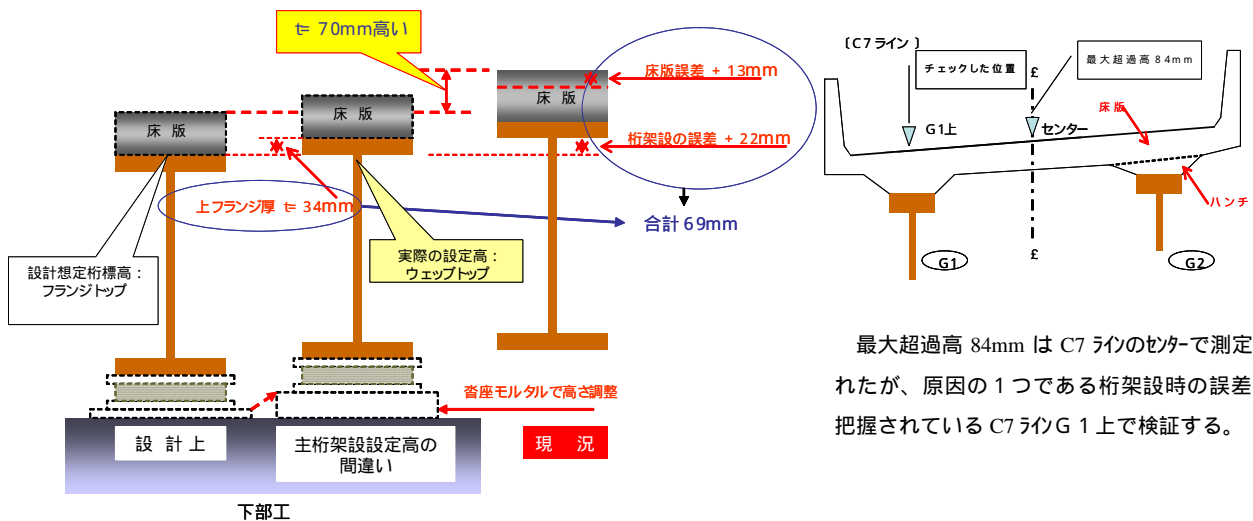
主桁架設設定高の間違い ( 図 2 に示す 部 )

請負者が設定高を上フランジトップ位置とすべきところをウェブトップ位置と間違い、設計で想定した桁標高より上フランジ厚分高く設定し施工。

桁架設時の施工誤差、床版及びハンチの施工誤差 ( 規格値内 ) ( 図 2 に示す 部 )

- ・桁架設時の桁標高が、規格値内 ( ± 25 + L/2mm ) であるものの設定高より高く施工。
  - ・床版及びハンチの厚さが、規格値内 ( 床版厚 : -10mm ~ +20mm ) であるものの設計厚より厚く施工。
- 規格値 : 『東北地方整備局共通仕様書』出来形管理規格値を示す。

中間部 ( 代表事例 : C7ラインG1・図 1 参照 )



最大超過高 84mm は C7 ラインのセンターで測定されたが、原因の 1 つである桁架設時の誤差が把握されている C7 ライン G 1 上で検証する。

( 図 2 ) 原因の概要図